

茜雲

阿南町立阿南第一中学校 学校だより
令和5年度3月号(最終)

令和6年3月16日(土)
担当: 棚橋秀光(教頭)

～ 令和5年度が終わりました ～



本日、卒業証書授与式を挙行了いたしました。4年ぶりに地域の来賓の方々にご臨席いただいて、保護者の皆様、在校生と一緒に卒業生28名の門出をお祝いすることが出来ました。

3年間でたくましく成長した卒業生は、ステージの上で校長から証書を受け取った後、一人一人がその場で義務教育9年間で振り返って語りました。本校恒例のこの発表は私たちの胸を熱くする瞬間です。在校生はこの言葉を

聞いて自分に置き換え励みにし、これからの一中をさらに発展させていくことでしょう。

本校を離れる卒業生はもちろん、在校生も4月からそれぞれ新しい環境で生活をスタートさせます。これまでにつけてきた「対話」で切り拓く力をもって、自らの夢に進んでほしいと思います。今後とも、地域・保護者の皆様から、生徒たちにおけた応援をよろしくお願いいたします。

生徒会の総まとめ 来年度にも期待を

卒業式を前に、生徒会の総まとめの会が2つ催されました。生徒総会と3年生を送る会です。企画する2年生にとっては大きな山場でしたが、がんばりました。

生徒総会は厳粛な雰囲気に含まれていました。生徒会を引き継いで初めての総会に、役員は緊張を隠せない様子。2年生の一生懸命な姿を、3年生が支え、1年生が応援するような意見交換もあって良いまとめの会になりました。

3年生を送る会は打って変わってにぎやかに。学年の出し物に笑顔があふれました。3年生にとって思い出に残る会になったことでしょう。

ともに、来年度の生徒会活動が楽しみになるような会でした。新入生を迎える新生徒会に期待しています。



卒業を控えた学び 特別日課にて

3年生の入試が終わりました。これまで、期待と不安を併せ持った複雑な心境でも、将来を切り拓くために努力を続けてきた3年生が、その緊張感から少し解放されます。気づいてみ

ると卒業が間近で、中学校で過ごす時間もわずか。そんな期間に普段できないような様々な学びをしていました。

環境整備活動は、世話になった校舎へ感謝の気持ちを込めて取り組みました。第2の教室のように使ってきた生徒会室を整理整頓したり、洗濯のためにカーテンを脱着したり。力仕事もてきぱきと、自分たちで判断して行動で



きる3年生の姿に成長を感じました。

薬物乱用防止は、学校薬剤師の先生を講師に行いました。中学卒業で社会との接点が一気に広がります。万が一の時のために知識を得て、とるべき行動を考える機会になったことでしょう。

お弁当の授業では、その日の給食を自宅から持ってきたお弁当箱につめる授業です。これまで、保護者の方に任せっきりだったお弁当づくり。これからは、「お弁当箱につめる」だけでも自分でできれば良いかと思えます。学校での学びをきっかけに、春休みはお家でもやってみてほしい、4月からは毎日・・・と願っています。

明日17日(日)より、4月3日(水)まで春休みです。健康には十分に注意し、進学・進級に向け充実した春休みにしてください。気力・体力ともに充電満タンにして、新年度を笑顔で迎えらるるようしてほしいと思います。

なお、3月27日(水)は新年度準備登校日で、1・2年生は8:15登校、12:10下校です。

= 令和6年度 4月当初の予定 =

4月4日(木) 始業式・入学式

- 新2・3年生登校 12:30 (バス 富草:雲雀沢12:00発、和合:大月11:50発)
- 清掃 12:40~12:50 ○始業式 13:00~13:20
- 学活 13:25~13:35 ○入学式 14:00~15:00
- 片付け・バス通生の会 15:00~15:15 ○学活 15:25~16:15
- 下校 16:25 (バス 富草16:28、和合16:20)
- ※特支学活 5組...15:05~15:15 3組...16:30~16:40

5日(金):給食開始 生徒会対面式・入会式 全校学習オリエンテーション 部活動発足式 集いの時間

9日(火):生徒会① PTA 常任委員会 11日(木):実力診断テスト 防災訓練

12日(金):発育測定 16日(火):ノーメディアデー 17日(水):尿検査1次①

18日(木):尿検査1次② 3年全国学力・学習状況調査 生徒会②

19日(金):参観日①、PTA総会 23日(火):生徒総会

25日(木)~27日(土)3年生修学旅行 30日(火)・5月1日(水):3年生計画休業

25日(木)1・2年交通安全教室 5月2日(火):部活動対面式

<< 令和5年度末転退職員 >>

在職の長短はありますが、大変お世話になりました。ありがとうございました。

- 棚橋 秀光 :松本市立旭町中学校へ (教頭)
- 塩崎 健介 :松本市立波田中学校へ (数学科、3学年担任、生徒会)
- 海沼千佳子 :松川村立松川中学校へ (英語科、1年副担任、5組副担任)
- 山本 篤也 :松本市立梓川中学校へ (技術・家庭科、3学年副担任、3組副担任)
- 樋口 美奈 :坂城町立坂城小学校へ (養護助教諭)
- 佐々木 朗 :阿南町立大下条小学校へ (用務員)



【ご家庭の皆様、地域の皆様へ】

一年間、本校の教育活動に対し、多大なるご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

アフターコロナの生活を生徒とともに模索する1年間でした。これまでの伝統を守りつつ、今とこれからの生徒の成長を目指して考えてきた毎日は、「対話」をもとにして充実した学校生活になりました。そんな中で、本日無事に卒業式を終えることができたのも、ひとえにご家庭の皆様、地域の皆様のお力添えのことと、深く感謝いたします。

職員一同、どの子にとっても安心・安全な学校づくりを目指して取り組んで参りました。来年度も、学校目標「知・徳・体」のもとに、子どもたちみんなが自ら学び、思いやりの心を育みながら、健やかに成長していける学校を目指し、予測不可能な未来をたくましく生き抜く力を育てていきたいと思えます。今後ともご家庭の皆様、地域の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

一年間お世話になりました。ありがとうございました。

令和5年度 卒業証書授与式

< 学校長 式辞 >

式 辞

風の冷たさに 往く季節の名残を、草や枝の先の蕾に春の到来を感じる頃となりました。

ここに、阿南町町長 勝野一成様、教育長職務代理 林一仁様のご臨席を賜り、令和五年度の卒業証書授与式が挙行されますことに感謝申し上げます。

二十八名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

このように多くのご来賓、保護者の皆様に見守られて盛大にお祝いいただけること、何より嬉しく思います。なぜなら、皆さんが入学した頃はコロナ禍の最中でしたから、

制限が多い時期でしたね。

それでも、ついに今年、皆さんが最上級生になると同時に開放的に活動ができることとなりました。修学旅行、生徒会総会、茜祭と、行事を一つ一つ行うたびに、みなさんの笑顔、そして、団結と成長の姿が見られました。実は、制約がないということは、今まで知らなかった新しい世界に挑戦するというハードルでもあり、皆さんは、創り出す苦しみさえも楽しみながら、前向きにハードルを超えてきたのです。

それに、いつも調和を大事にしているように、私には感じられました。

生徒会スローガンを「キャッチボール～対話で思いを伝え合おう～」にしたいと聞いたときは、阿南第一中学校の歴史を受け継いでいくという皆さんの気持ちを感じて嬉しく思いました。実際、今年度 共に様々な対話をしてきましたね。対話集会、レベルアップゼミ、制服の検討、茜タイム、その中心で対話を進めていたのは、グループワークの上手な、最上級生としての自覚をもった皆さんでした。

対話は、どれも素朴な感想や呟きに端を発し、小さな意見を全体に広め、多くの人が反応して やり取りしながら進みました。変える・変わることもよりむしろ小さな呟きを大事にしたことに一中の「一人ひとりを大切にする」という学校の文化があるように思います。これを一歩進めてくれた皆さんに感謝したいと思います。

皆さん、二十八人の世界といえども、これまでにはいろいろなことがあったでしょう。新しい友達、違う考え方に会い、時には荒ぶる気持ちと闘いもしながら今日を迎えた自分を、よくやったと認めて、学びを修める区切りとしてください。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠にありがとうございます。今日のお子様の晴れの姿は、入学式と比べてはっとするほど大人びて感じられることと思います。ずっと腕の中にいた子ども達は、義務教育を修了し、自らの道へと進んでいきます。どうかこれからも心を離さず、見守ってくださいますよう、お願い申し上げます。

改めて、卒業生の皆さん、今、世界にはさまざまな課題があります。紛争や争いも続いています。ひとりひとりの背負っているものが違う中で、どうすれば ともに よりよく 生きていかれるのか、そのことを考える素地として、対話の経験やその大切さを心にもって歩いていってくださることを願っています。

結びに、本日ご列席の皆様、日頃より本校を支えてくださっている地域の皆様に厚く御礼申し上げ、式辞といたします。

令和6年3月16日 阿南町立阿南第一中学校長 江口 尚

< 在校生 送辞 >

送 辞

肌寒さはまだ残っていますが、日々の端々から春の到来を感じられるようになって参りました。

本日この良き日に、阿南町立阿南第一中学校を卒業される二十八名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

今、3年生の皆さんは阿南第一中学校で過ごした3年間の思い出をどのように思い起こしておられるでしょうか。学校生活の中で多くの人と出会い、関わり、貴重な体験をした日々は大切にひとつひとつがかけがえのない思い出になっていることと思います。

皆さんは常に私たち後輩を先頭に立ち引っ張ってきてくださいました。そんな皆さんは私たちの憧れであり、目指すべき目標でした。

部活動では常に全力で取り組み、目標に向かって努力している姿がとても輝いていました。その姿を私たち下級生は、心から「この人たちについていきたい」と思いました。そんな先輩方の姿からは、机に向かう勉強だけでは

得られない大切なものを教えていただきました。最後まであきらめずに戦い抜き、仲間との笑顔がはじけた中体連、聴いている人が自然と幸せになるような吹奏楽部の演奏。感動と喜びを与えてくださった皆さんの姿は今も心に残っています。

また、生徒会活動では「キャッチボール～思いを対話で伝え合おう～」というスローガンを掲げ、学校をリードしてくださいました。「対話」は生活の基本であり、時に自分を成長させてもくれる、生きていく上での基本でもあると思います。そんな今までも、そしてこれからも大切な「対話」。生徒会はもちろん、部活動などの様々な場面で「対話」があふれていました。中でも3年生が中心となって開催された第55回茜祭では「バルーン～つながりふくらむ72の想い～」というテーマのもと対話を基本に、多くの人に笑顔と感動を与えてくださいました。ステージバックの制作は全校で取り組んだこともあり、まさしくみんなの想いが詰まった素晴らしいものでした。みんなの心に笑顔を咲かせた茜ステージや晴天のもと全力で競い、笑い合った茜スポーツフェスティバル。コミュニケーションをとりながら協力して「対話」というバルーンを膨らませることができました。中でも一番印象に残っているのが茜スポーツフェスティバルです。学年別大縄飛びは、仲間との連携が必要な競技です。今年のASFでは苦手な人も最後まで一生懸命跳び、励ましの声をかけ合いながら協力して何かを成し遂げることの感動を味わうことができました。間違いなく「対話」とそこからもたらされる絆であふれた茜祭でした。この2日間は茜祭に参加したすべての人の心に残るものだったと思います。

今、私たちは生徒会と部活動を引き継ぎ、中心となって運営することの大変さ、そして、これを一年間続けてくださった3年生のすごさを実感しています。いつも頼もしく私たちを引っ張り支えてくださった先輩方がいなくなってしまうのはとても心細く寂しく思いますが、皆さんが築いてくださったこの学校をより良くできるよう、精一杯努力していきます。

卒業生の皆さんはこれから先、それぞれ選んだ道を歩んでいかれることと思います。時に困難にぶつかったときはここでの思い出を振り返り、乗り越えていってください。私たちは皆さんをいつまでも応援しています。

最後になりますが、卒業される皆さんに改めて感謝申し上げ、今後のご健康とさらなるご活躍をお祈りし、掃除とさせていただきます。

令和6年3月16日 在校生代表

<卒業生 答辞>

答 辞

厳しい冬の寒さも和らぎ、木々の蕾も膨らみ始める季節となりました。本日は私たちのために、このような素晴らしい卒業証書授与式を挙げていただき、誠にありがとうございます。先生方をはじめ、来賓の皆様、保護者の皆様にご臨席いただきありがとうございます。そして、卒業を迎えられることに卒業生を代表して厚く御礼を申し上げます。

今振り返ると私たちは入学してから二年間コロナとともに歩いてきて、三年生になってやっと色々な制限が緩和されてきました。そんな三年間の中で仲間とたくさんの思い出を作り、たくさんのことを学んできました。

私が中学校生活で最も印象に残っているのは第五十五回茜祭です。茜祭テーマを考える時に総務会のメンバーで話していくなかで全校の対話の集大成を茜祭で出したいというのがあり色々なことを考えて第五十五回茜祭のテーマは「バルーン～つながり・ふくらむ72の想い」にしました。茜祭を成功させるために全校で一丸となって自分たちが目指す茜祭にするために準備を進めていきました。そんな茜祭当日は私自身とても緊張していましたが二日間ともスムーズにいき、無事対話で創り上げた茜祭を成功で終わらすことが出来ました。茜祭を通して仲間と協力することや対話の大切さ、茜祭を楽しむことなど様々なことを学び経験することが出来ました。

茜祭が終わると、三年生は自分のこれからの人生を左右する進路を決めるための重要な時期を過ごすことになりました。一人一人が自分の進路と向き合っていく中で大変なこともありましたが、先生方の熱心な指導やいつも近くで見守ってくれた家族の皆さんのおかげで自分の道を決めることができました。本当にありがとうございました。

今日、私たちはこの阿南第一中学校を卒業します。この三年間楽しいこともつらいことも共に過ごしてきた仲間と別れそれぞれの道を歩いていくことはとてもさみしいことですが三年間で学んだことや思い出を胸に刻み、精一杯努力していきます。この中学校三年間は私たちにとって忘れられない大切な思い出です。最後に、今まで支えてくれたすべての方々に感謝の気持ちをお伝えして、答辞といたします。

令和6年3月16日 卒業生代表